平成 23 年度　事務事業事後評価調書（平成　22　年度事業）

整理番号　8 － 7

1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

事務事業名	若草保育所園庭緑化事業					
評価者	担当課名	保育所		担当係名	児童保育係	
	管理職	職名	所長	作成者	職名	係長
		氏名	佐々木幸博		氏名	大水麻理
事業の概要	保育所入所児童の安全と環境向上のためのグランド緑化工事。					

事業費	全体計画 /単年度のみ（平成 22 年度～ 年度）
国・道支出金	千円
地方債	千円
その他	千円
一般財源	千円
事業費計	千円

実施方法								
	■	直営		民間委託		その他（　　）		
第 5 期 総合計画（前期）		登載事業	■	非登載事業	優先度	A		

事業の位置付け			
政策目標	2	ぬくもり・雄武～保健・医療・福祉の充実～	
基本施策	8	子育ち・子育ての充実	
単位施策	2	「子育て」支援の強化	
事務事業の種類	■	自治事務	法定受託事務
その他計画・根拠等			

事業費 実施年度	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度(実績)	23年度(見込)	24年度(計画)
国・道支出金	千円	千円	千円	千円	千円
地方債	千円	千円	千円	千円	千円
その他財源	千円	千円	千円	千円	千円
雄武町負担額（一般財源）	千円	千円	2,898 千円	千円	千円
合計	千円	千円	2,898 千円	千円	千円

2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

【誰、何が（対象）】	保育所入所児童
【抱える課題やニーズは】	グランドでの転倒によりけがをするおそれがあった。
【どのような状態になることを目指したのか（意図）】	転倒の際のけが防止と新保育所の環境整備を目的とする。
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果＝目的	芝生化し児童、職員等の転倒による負傷が軽減できる。

望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標）

1か所

指標（指標計算式／解説）	目標値及び実績値	
① 園庭緑化工事	目標年度	平成22年度
	目標値	1 箇所
	実績値	1 箇所
	達成度	100.0 %
	目標年度	
	目標値	本
	実績値	本
	達成度	%

内容（どのような手段で何を行ったか）	
園庭緑化工事	グランド全体の芝生化工事完了

3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

必要 必要／概ね必要／課題あり	□義務的なもの □全部 □一部	児童が保育所生活を送りやすい環境、さらには保護者が安心できる保育環境をつくるため本工事は必要である。

（2）事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

有効 有効／概ね有効／課題あり	設定した目標値の達成状況 ■達成 □ほぼ達成 □下回る	保育環境の整備として施設の緑化と児童の安全確保が図られた。

（3）事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

効率的 効率的／概ね効率的／課題あり	判断の理由 ■事業費抑制 □人員削減 □時間短縮・作業軽減 □その他	入札により適正価格で契約が成立し予算額を下回る事業費の抑制が可能となり効率的な事業を実施することができた。

（4）事務事業の公平性

公平 公平／概ね公平／公平でない	判断の理由 □受益者負担がある □受益者負担がない □受益が一部に偏る ■その他	入所児全員にとって保育中の安全性が向上した。

4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

自己評価（一次評価）	評価会議評価（二次評価）	町長評価（三次評価）
A		
芝生化により保育中の安全性、環境整備が向上した。		
今後の展開方向 （Action）		
終了		

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）